

全面有孔ポリエチレンフィルム
マルチ被覆工
施工マニュアル

ソイシアンジャパン株式会社

■ マルチ被覆工の必要性とねらい

マルチ被覆工とは、暖地型芝草の植付不適期において、初期生育期における芝の保湿・保温のため、ポリエチレンクロスシート、フィルム等の被覆資材で被覆させる方法を意味します。

1) 被覆資材を使わない場合のリスク

被覆資材を使用しない場合のリスクとしては、次のようなものが考えられます。

1. 乾 燥 害
2. 霜 害
3. 凍 害

2) 被覆資材の利用効果

被覆資材には次のような効果が確認されています。

1. 植え付け後の活着促進
2. ランナー先端部の保護（生育期間の延長によるターフ形成促進）
3. 霜柱により芝が浮き、乾燥枯死するのを防止
4. 不陸部分に水溜りができ、凍結融解によってランナーが枯死するのを防止
5. 雨裂（土壌侵食）防止（勾配のある場所では水道がエロージョンを起こしやすい）
6. 種子発芽促進（保温、保水効果で発芽を促進し、かつ散水等による発芽ムラを防ぐ）

*ランナー：地上・地下のほふく茎を意味します。

■ 特 長

① 有孔ポリエチレンフィルム（透明マルチ）

保温性、保水性ともに高い資材です。植え付け直後活着までの乾燥防止に適しています。保水性が高く、日中に土壌表層付近の水分が地上に吸い出されるので、霜の害（凍結、乾燥）を受けにくいのも特徴です。マルチング下での飛びランナーがしっかりと保護されるため、枯れることがなく、早春のランナーの動き出しもスムーズです（マルチがない場合ではランナーの先端部の伸びは止まるか、鈍ります）。

晴天時気温が20℃近くになるとマルチ下温度は40℃近くにまで上昇します。撤去時期を逃すと品種によっては芝が腐りますので、霜が下りにくくなる4月中旬（地域によって異なる）頃には撤去したほうが懸命でしょう。保水性が高く雑草も大きくなるので、雑草が小さく芝の発芽が揃う時期を見計らって撤去します。敷設時、設置後に風に飛ばされやすいので、しっかりとアンカー、ロープで固定します。

■ 規 格

品 名	寸 法		備 考
	幅	長さ	
ポリエチレンフィルム Z180	1.8m	100m	全面有孔、ドリルホール加工

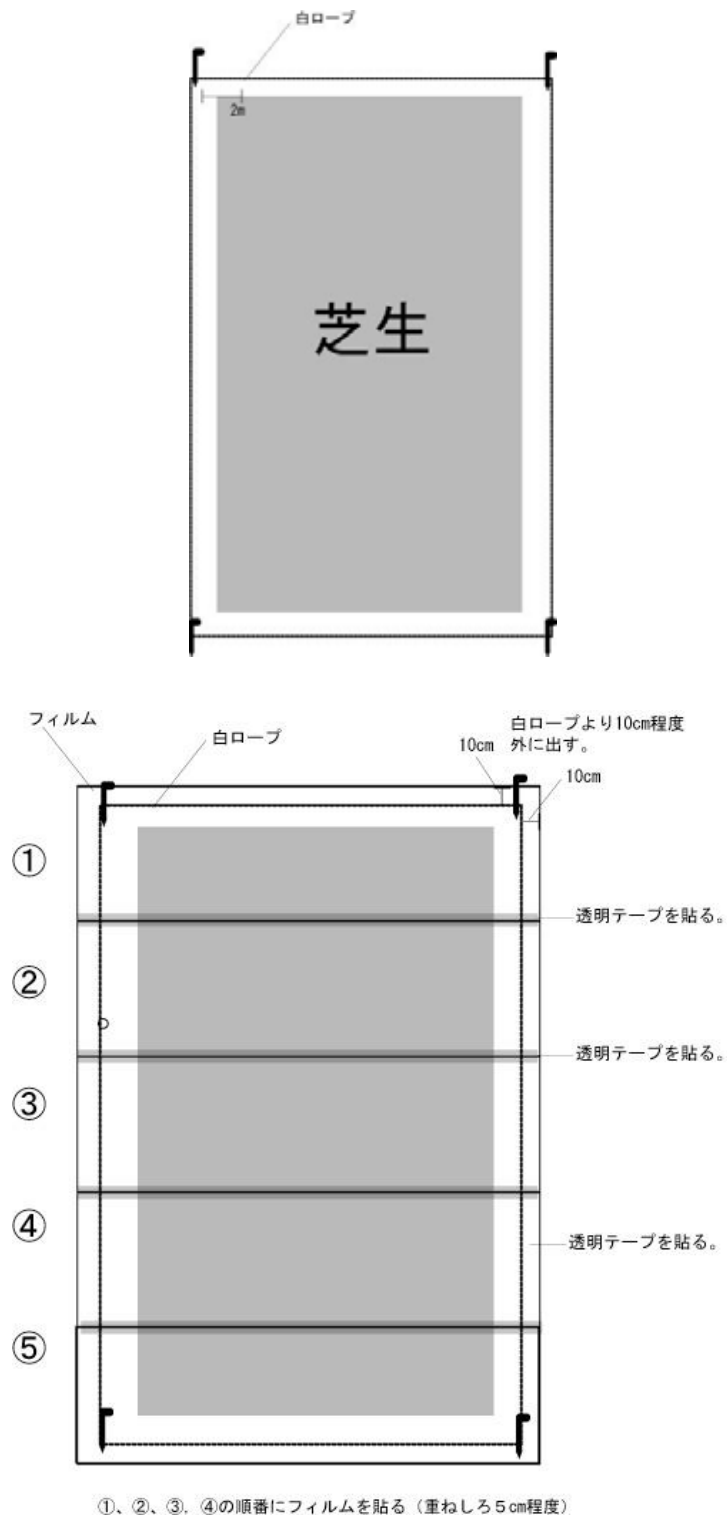
■ 施工要領

施工フロー	方 法	注意事項
①散水	芝地全体に軽く散水をします。	天候、土壌条件等現場条件にあわせ判断してください。
②枠どり	白ロープで、施工エリア全面を枠どりします。	
③フィルム延転	ポリエチレンフィルム Z180 を敷設します。 フィルムとフィルムのつなぎ目は、透明テープでしっかりつなぎあわせませす。	風の強い時は作業を中止してください。 フィルム延転後はすぐにテープを張ってつなぎあわせてください(水蒸気があがってきてテープがフィルムに貼り付かなくなります)
④フィルム端部の巻きつけ	白ロープに、フィルムの端をまきつけます(内巻き)アンカーを約2mピッチで金づち等を使い、しっかり打ちこみます。	
⑤ロープ張り	風で浮き上がらないようにシートの上から、グリーンロープをテープ接合部の上にくるように張ります。この時、角をアンカーで止め、ロープは少したるみをもたせませす。フィルムが風で飛ばされないよう、③~⑤を同時進行で作業します。	
⑥フィルム敷設後のロープ張り	マルチ施工完了後、グリーンロープを柵状に張ります。この時、角をアンカーで止め、ロープは少したるみをもたせませす。	
⑦ロープ交差部のアンカー打ち	グリーンロープ同士が交差した場所(テープ接合部)に、アンカーをさし、ねじってから打ち込みませす。これにより、ロープのたるみがなくなります。	テープ接合部以外では、日フィルムが破けやすくなります。

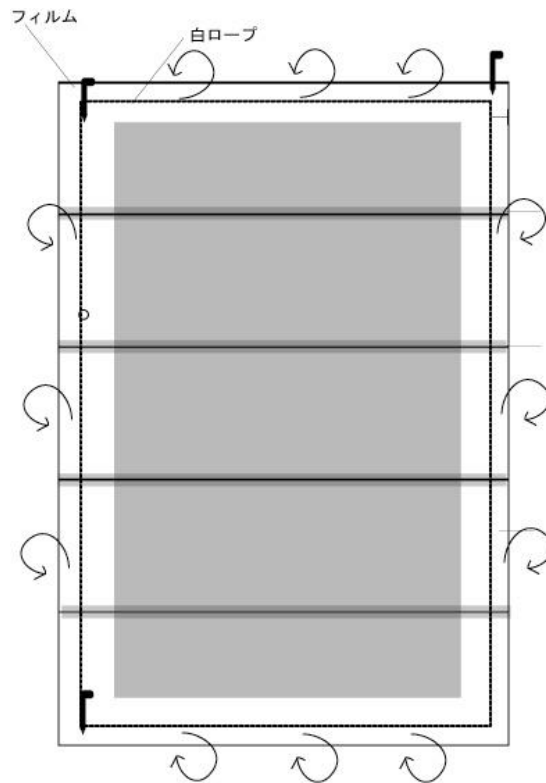
■ 標準単価表(1000㎡あたり)

名称		規格	単位	数量	単価(円)	金額(円)
材 料 費	ポリエチレンフィルム Z180	1.8m×100m	本	7	4400	30800
	白ロープ	PPコード白7号	m	200	10	
	グリーンロープ	L=10m	m	2500	60	
	テサテープ	W= mm、L=m	本	9	300	
	アンカー	Φ=9mm L=200mm	本	990	30	
労 務 費	世話役		人	0.8		
	普通作業員		人	6.8		
諸 雑 費			式	1		
合 計	¥ /㎡					

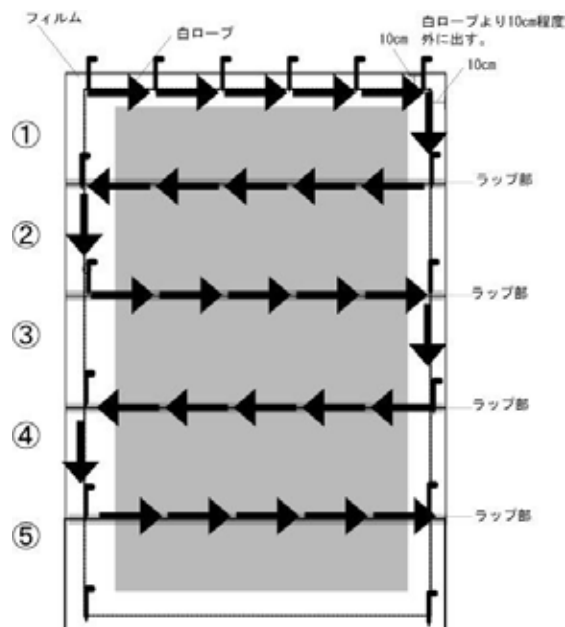
■ 施工手順図



■ アンカー、ロープの位置図



白ロープにマルチの端を内側にまきつけ、
アンカーを約2mピッチで
白ロープの上から打込む



グリーンロープを矢印の方向にはっていく。
この時、少しロープ

